

# 尊敬する恩師、ともに頑張る仲間を見つけることの大事さ

Suico, Mary Ann 熊本大学大学院生命科学研究部助教

薬学系 (分子生物学)

## 尊敬する先生との出会いが人生のターニングポイントに

母国フィリピンの大学で理学部を卒業し、その後科学技術省に研究員として勤務しました。そのあと大学教員となり、理学部修士課程へと進み、修了後に来日。

日本では熊本大学大学院薬学研究科で博士号を取得した後、熊本大学の教員(助手、助教)の職に就きました。

私のターニングポイントはやはり日本に来て大学院博士後期課程に入学したことです。それまではほとんど研究ができていなかったもので、これは人生の大きな転機となりました。

現在のポストで、そして学生時代のポストでもあった甲斐広文教授がスタッフとして私を受け入れてくれ、研究を続けるチャンスを与えてくれたことも重要なターニングポイントです。尊敬する甲斐教授との出会いがなければ、私の進路は間違いなく、異なるものとなっていたことでしょう。

現在は、身体を構成する細胞に焦点を当て、細胞の中で働くさまざまなタンパク質がどのように増殖するかに興味を持っています。将来的には、得られた研究結果をもとに細胞増殖が

異常になる病気、例えばがんなどの治療法を開発することができるように、研究を進めています。将来はフィリピンに戻り、日本で学んだ多くのことを母国の若い研究者に伝えることが、私の使命だと考えています。

## スポーツが大好き！ 走ってストレス解消を

仕事をする時は真剣に取り組む、休む時はしっかりと休む。これが私のワークライフバランスの取り方です。休みの日は、好きなエクササイズや友人との外出などを楽しんでいます。

また私のストレス解消法は走ること！熊本大学で毎年行われる『阿蘇耐久遠歩大会』にも過去6回(35キロ5回、60キロ1回)出場しています！

今のところ仕事が恋人のようなもので、プライベートも充実しているので、結婚の予定は当面ありません。充実した刺激ある日々を楽しんでいます。

女子学生には「自分を信じて、成功を信じて一生懸命に頑張る」とメッセージを送りたいです。自分を信じていけば、きっと何事もうまくいくと思います。



研究室の様子



学生たちと過ごす時間も真剣勝負！



Suico, Mary Ann

理学部  
科学技術省(研究員)  
大学教員  
理学部修士課程  
博士課程(熊薬)  
大学教員

### One day

- 7:10 大学へ
- 7:30 文献紹介セミナー  
またはデータ討論会
- 9:00 講義
- 12:00 昼食
- 12:30 実験またはデスクワーク
- 18:30 帰宅

甲斐教授との出会いが大きなきっかけとなった

◎座右の銘  
Follow the road less traveled.  
行く人の少ない道を進め  
◎ストレス解消  
ランニング

### profile

すいこ めりーあん/フィリピンセブ島出身。1991年サンカルロス大学理学部卒業後、約3年科学技術省で研究員として勤務した後、大学の講師となる。1996年サンカルロス大学の大学院を修了し、日本へ。2003年熊本大学大学院薬学研究科博士後期課程修了、薬学博士号取得。2003年より同大学院医学薬学研究部(遺伝子機能応用学分野)の助手を務め、2007年4月より助教、現在に至る。



Q.結婚生活と仕事は両立できますか？(内既婚者は67%)  
できる 82% できない 18%